

協議会委員からのメッセージ

～ 計画に込めた願い ～

この計画は、墨田区次世代育成支援行動計画策定地域協議会の委員の方々が中心になって、おおよそ1年にわたる協議、区民との対話などを通じて、策定したものです。

ここでは、計画の策定に携わった委員の方々が感じた思い、計画に込めた願いを、すべての墨田区民の方に贈るメッセージとしてご紹介します。

「女性が子どもを健全に妊娠し出産することは、私的なことではなく、人類に対する責任ある行為であり、20世紀はそれに関する政策が中心課題となろう」と説いた性心理学者ハヴロック・エリスの思いが、100年を経たいま、次世代育成支援政策で花開こうとしている。それは、健全な妊娠・出産といった優生学的な視点から、子育て・子育ちという母性文化のレベルにまで拡張され、責任主体も、当の女性から男女共同、さらに社会全体にまで拡張されて登場する。肝心なのは、メニューの数ではなく、一つひとつが日常生活に無理なく対応しており、取り組むのは、行政や特定の専門機関だけでなく、地域社会を構成するすべての事業体・組織・住民なのである。そして、当面の必要性をいかに充たすかというだけでなく、人類に対する責任という高い理念にもとづいて行動するということである。したがってこれは、今回の行動計画の策定で完結するのではなく、私たちの社会がこれからたどろうとする長い道のりの第一歩であることを銘記して、互いにわだかまりを乗り越え、共に連帯して実現にむけ努力したいと願っている。

財団法人共愛館理事長 布施 英雄

私の今回の行動計画への期待は、この文書の中に①今後の児童福祉を考える視点が盛り込まれていること ②次世代育成に関するメニューが一覧できること このふたつであった。実効性については、新しいメニューを考えるのではなく、現行の制度、メニューを利用しやすくすること、また連携を図り、機能を高めることが大切であると考えた。問題解決のための関係機関、関係者の協働はたやすすくない。現状を知り、学びの機会を設定しつつ連携が図られてゆく。子どもたちの将来に思いをはせて、時間をかけ、段階的に取り組んでゆく一步に協力したい。

社会福祉法人興望館館長 野原 健治

「墨田区次世代育成支援行動計画」は、子どもたちやその家族に対する様々な支援が盛り込まれているすばらしい計画ですが、これらを実現させるためにはマンパワーと経済的サポートが不可欠です。私たち医師の立場としては、乳幼児夜間救急医療体制を早急に確立することが重要事項ですが、現在ネックとなっているのが小児科医不足です。何とかこの壁を乗り越えて、一日でも早く乳幼児夜間救急医療がスタートできるよう取り組んでいきたいと思っております。

沢田医院院長 沢田 幸地

墨田区の行動計画ができ上がりました。「下町すみだ」の特性を生かしながらも、遷り変わる住宅事情や子育て環境に見合った新たなる計画づくりとなっております。子どもたちと育てている保護者の方々に、行政や「下町すみだ」の地域の方々が暖かい心で関わり合いながら、その子どもたちが、大きくなっても「下町すみだ」に暮らし続けたいと思えるよう、この行動計画がお役に立ってくれば幸いです。

杉の子学園保育所 長田 朋久

幼児期における教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うものとして大変重要なものです。幼稚園と保育園は利用の要件や開設時間、運営の内容、保護者の負担などが異なります。それぞれの良さや特徴があり、各園の理念や特色を生かした教育（保育）を展開しています。現在、国においては就学前の教育を一体として捉えた総合施設についての検討が進められており（現在 品川区、千代田区、埼玉県他で実施）、それぞれの家庭や親の状況と、年齢や発達に応じた子育て支援の機会が一層充実することに期待が寄せられています。次世代の当区の幼児教育はどうあるべきか、同じ墨田区に暮らす子どもとして、幼児期に適切な教育を受けられる環境を整える方向づけが必要と思う。当区も総合施設の充実に向けて、区、幼、保一体となって検討、着手が早急に望まれます。

言問幼稚園園長 小林 昭彦

計画の方向性と枠組みは決まりました。今後は、計画に掲げた事業目標の実現に向けて、大人たちが精いっぱい汗を流すことだと思います。

心と体と智慧を用いて・・・！！

雲柱社理事長 墨田児童会館館長 服部 栄

子育て世代の現役としては、その大変さを言葉にすることは、なかなかできません。乳児だから大変だとか、子どもが大きいから大変だということではなく、いつも大変なんだと思います。そしてもちろん周囲の協力が不可欠です。地域の手つなぎも必要ですが、並行して行政主導のネットワークも大切です。行動計画に示されている方向性、そしてそれに伴う事業を有機的に推進していくために、区にはその仕切り役になって欲しいと思います。困った時にすぐ利用のできる敷居の低さと間口の広さを、そしてそのためのマンパワーの確保と広報活動の充実を、目標達成のために。

社会福祉法人厚生館立花施設長 宮田 進

次世代育成支援行動計画の一委員として関わることで墨田区の子どもたちの未来について考え、学んだことは個人的にも大きな収穫でした。子どもが健全に育つ環境はすべての住民にとっても豊かな環境であると思います。

戦後、経済的豊かさを求めてきた結果、日本の社会は人とのつながりが希薄になり地域社会の助け合いを失ってきました。それに多様な価値観は、子育ての環境をますます困難にしています。しかし、子どもたちの育つ力はすばらしく、そのエネルギーに圧倒されますが、その中で喜びをたくさん受けています。未来を拓く子どもたちを区民が見守り、育ちを助けることを心がけ、私も、一区民として地域社会の中で役割を果たせる一人でありたいと願っています。

すみだ子育て相談センター施設長 大串 紀代子

次世代育成支援行動計画の委員に、主任児童委員の立場で参加させていただき、とても感謝いたしております。この行動計画により、墨田がより多くの子どもたちを慈しみ育てていくことができる地域になりますよう強く願っています。私自身としましては、この委員会で学んだことを生かし、民生児童委員信条の中にあります「わたしたちはすべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。」の条文に添い、自分の役割に積極的に取り組んでまいりたいと思っています。

主任児童委員 岩立 道子

安心して子育てできる社会にするためには、何が必要なんだろうか？

保育園や学校では、子どもたちに「あいさつをしましょう」と指導しています。これは、大人にとっても今一番必要なことではないでしょうか。簡単な様でなかなかできないことなんです。昔から、下町の良さは、両隣のご近所様を大切にしてきたことですが、今は誰が住んでいるのかも知らずとしない様です。子育てで心配や不安があったら、一人で悩まずに話をする。誰かに聞いてもらうことが心の安定につながり、やさしさが生まれます。昔ながらの下町をめざし、一声かけて、今日も笑顔で「こんにちは～」からスタートしたいと思います。

男女共同参画推進会議委員 斧 まゆみ

本所地区PTAの代表として出席させていただきました。

この協議会では福祉の専門の方や児童館の方や公募委員の方等、いろいろな立場のいろいろな意見を聞き協議することができました。

そして数々の計画ができましたが、やはり大事なことは行動に移すという事です。行政の広報活動に頑張ってくださいと共に我々の広報活動も重要であると考えます。PTAの連合会であれば連合会として説明会を開いても良いですし、各学校ごとに説明会を開くなどをして良いのではないのでしょうか。私のできることはほんの小さなことだと思いますが、明日の子どもたちを育てるための小さな応援者になればと思います。

本所地区小学校PTA連合会元会長 高杉 政宏

小学校PTAという立場で、この次世代育成支援行動計画の策定に参加させていただきましたが、さまざまなご意見の中で、参加されている皆さんが、これからの墨田のためによりよい思いを真剣に考えていることを感じました。この計画が速やかに周知され、実行されて区民の皆様のお役に立てることを期待しています。

向島地区小学校連合PTA会長 高島 隆一

協議会では、各委員が団体の代表と言う事と公募委員で構成されている事とともにパブリック・コメントを含め色々な意見を聞く事ができました。しかしながら、この協議会をもっと広くの区民の皆様と考えていく必要があると思いますので、“つながり”をキーに今後も伝えられるようにしたいと思います。

また、必要な情報が必要な人に届く事も大事な役目だと思いますので、色々な団体の皆様と協力をお願いしていききたいと思います。

中学校PTA連合会元会長 田村 亨

協議会に参加して、国や区（墨田区）が子育てに対し、たくさんの支援や制度に力を入れていることを知りました。子どもを生んで育てたい人たちが増えるのには、制度だけでは乗り越えられない個人の生き方、考え方やたくさん問題点があります。女性の生き方も自由選択できる時代に、子育てをするリスクは解決できないと思います。でも、子どもを生み育てたい人もたくさんいます。そんな人たちのために、私達地域活動をする人が力になれることがあると思います。これから、新しい制度や必要な制度を若い人たちの声を聴き協力できればと思っています。

墨田区青少年委員協議会 小田 美佐江

今、問題視されている少子化や子育て教育。大人や子どものストレスからおきるさまざまな犯罪。日本中が慌てふためいている。何から伝えたら良いのか。私自身も正直悩んでいます。ただ言えることは、大人たちも強い人間ばかりではなく、小さな事に悩んだり、くよくよしたり、泣きたいと思う時があるものです。今、悩みをかかえているあなただけが弱い人間ではないのです。お互い支えあって生きていけば、そこからやさしさや人に対する思いやりが生まれ、大切な子どもたちが夢と希望を持ってくれる。両親は、我が子を暖かく見つめ抱きしめてあげましょう。それで十分です。努力をしても報われないことがあります。でも努力をしなければ夢は叶いません。頑張れ！

寺中地区青少年育成委員 松崎 せつ子

この計画の策定に地域協議会の委員として携わった一人として、これからは本番、行動を起こす時を実感しています。子どもを生み育てる人たちがこの施策を有効に活用されることを願っています。

しかし、私はこれより前の世代、小・中・高校生（青少年）の育成に目を向けていきたい。成長過程の彼ら、彼女らに実践的な体験活動の場を提供できればと思います。例えば、

☆保育園での実習－命の尊さ、不思議さを実感

☆野外活動－異年齢との協調、同世代と協同

☆高齢者と交流－生きる力、知識や技能の伝達

他者と関わりを持つことで自分を肯定することができる、そんな若者に育ってほしい。未来のパパとママに期待したいから！！

墨田区少年団体連合会 野城 東亜子

少子化・人口減少が経済社会に大きな影響を与える事が懸念される昨今、仕事と子育ての両立支援という事に個々の企業が積極的に取り組む姿勢を持たなければいけない時代となりました。働く人々の価値観やライフスタイルの変化への対応、企業・地域の活性化のための女性労働力の活用等、環境づくりは企業経営者のリーダーシップにおう所が多く、社会的責任の中で、個々の企業が身近なところから取り組む必要があると思います。

小菅株式会社代表取締役社長 小菅 崇行

子育ては決して私的なものでなく、社会的な出来事としてとらえること。子育ては親のみでなく、地域全体がその責務を共に担うことができることをこの委員会で学んでいます。

私自身、親となる以前には育児に関する興味もなければ、乳児の世話をした経験もありませんでした。様々な助力を得て、産後のうつ状態を切り抜け、育児の不安は自分だけのものではないことを実感しています。

子育てを街ぐるみで応援する準備が整いはじめました。多くの方がこの街づくりと子どもたちの育ちを見守り、参加して下さることを願います。

公募委員 加藤 洋子

子どもを育てることと働くこと。一人の大人として、当然のことだと思っていたこの二つの営みを両立することがなぜこんなに大変なのだろう？そう感じたことがこの協議会に参加するきっかけでした。子育て世代の一人としてこの行動計画策定に参加できたことは大変嬉しく思います。出生率がどんどん下がり続ける中、次世代法の法律が生まれました。これをきっかけに、企業も自治体も、大人たちすべてがもっと子育てに関心を持ち次世代育成について真剣に考える世の中になっていけばいいなと強く思います。そして、すみだのすべてのこどもたちが、健康で、笑顔でいられるように、願っています。

公募委員 淵田 果恵

路地や公園から元気な子どもたちの歓声が聞こえてくると、何故か幸せな気分になってきます。子どもの声には、そんな魔法の力があります。この墨田がいつまでも、活力に溢れるまちにするには、少子化を嘆くばかりでなく、いまこそ行動が必要です。その第一歩は、私たちの意識改革から始まります。男性も女性も同じように、子育て・共育ちに魅力を感じ、育児という能力を正等に評価できる社会にすることが必要です。乳幼児期、青年期それぞれの発達に正面から向き合える大人がたくさんいる墨田のまちになることが、スタートラインです。なにより、英知を集めて作成した行動計画のひとつひとつに、形だけでない本物の魂を入れることができるか、私たちも行政も責任は大きいと痛感しています。

公募委員 須貝 利喜夫

本計画作成にあたって、様々な立場の方が、真に墨田区の未来に希望を託し、建設的な意見が述べられました。人と人とのつながりを大切にする町、それが、すみだです。この行動計画が実践される中で、子どもを生み育てる環境が充実し、ここに暮らす一人ひとりが大切にされ、みんなの目で育まれて豊かに成長していくことを期待しています。

自ら、様々な情報を得て活用し、生き生きと過ごして欲しいと願っています。

八広幼稚園長 逆井 弘子

『おうまのかあさん やさしいかあさん 子うまを見ながら ぽっくりぽっくり歩く』

童謡「おうま」の歌詞と同じ光景を旅先の牧場で見ました。一頭の子馬が左右上下に首を振りながら円を描くように母馬の近くを走り回っています。そして、子馬は母馬との間が少しあくと、離れまいと後を追います。母馬は子馬の様子を感じながら、つかず離れずに、ゆっくりと先を歩んで行きます。時折、離れたわが子を振り返り、優しいまなざしで見つめます。

この母馬のように、子どもを押ししたり、急き立てたりすることなく、つかず離れずに、見続ける子育てを支援する私でありたいと思います。

両国小学校長 登坂 達雄

「これからの人材育成には、学校と家庭・地域・企業の協力が必要であり、その中で企業はファミリー・フレンドリーな会社を目指すべきである。男性でも女性でも育児休業や、子どもの保護者会のための休暇がとれる企業にしたい。それなのに、自分の娘の出産で婿が育児休業をとると聞いて、抵抗があった。」ある大企業の相談役の方の講演会でお聞きした言葉です。これまでの長い歴史の中でつくられてきた意識を変えることは大変なことです。行政の様々な施策・事業や、いろいろな分野での活動を体系化すること、そしてそれをいかに広めるか。地域を歩き、地域の声を拾いながらこの計画の調整・推進をしていく広報活動プロジェクトチームの結成を。

吾孺第一中学校長 長谷川 ミチル

幼稚園、保育園の保育者や親の代表、保健師、子育てサークルの代表、ボランティアの代表、行政担当者等がブロック毎に「保育・子育て協議会」のようなものを組織して、定期的に会議を公開で実施するのです（児童・青年期の協議会も同様に組織する）。そこでそれぞれの立場から意見を出し合い、行動計画の進行状況を確認したり、デザインしなおして実践していけるとよいと思います。このことを通して地域のつながりが深まり、“街ぐるみで育てよう地域の子どもたち”の意識が広がっていくことを期待します。また、そこには様々な支援をつなぐコーディネーターが必要です。早期に総合支援センターの設立を要します。私はおせっかいおばさんになりたいです。

すみだ保育園長 森 妙子

人の行動は社会環境に影響を受けるため、健康的な行動を行いやすい「都市環境（健康都市）」を創造する必要性について、最近、認識が進んでいます。喫煙を予防するたばこの自動販売機対策、食品や外食の栄養成分表示などがその典型例です。生徒・学生・働く若い方々が、健康行動をとりやすい「健康都市」を、墨田区のコミュニティ力によって、つくってゆく必要があるでしょう。

生徒・学生・働く若い皆さんには、障がいを乗り越え回復した当事者の方々の、こころを動かす話を聴く機会を持ち、多様な人の生き方を知って欲しいと思います。一方、大人の側にも、若い皆さんに、事業の企画や施設の自主管理などを任せ、達成感や社会貢献感、生きる喜びを持てるよう、発想を転換することが求められているのではないのでしょうか？

向島保健センター所長 本保 善樹